



Sitecore Azure 7.2

Sitecore Azure スタートガイド

Sitecore 管理者の概要

目次

Chapter 1	Sitecore Azure スタート ガイド	3
1.1	概要	4
1.1.1	Sitecore Azure 7.2 デプロイのオプション	4
1.1.2	Sitecore Azure のインストール要件	7
1.1.3	Windows Azure ローカル エミュレーターの使用	8
1.1.4	Microsoft Azure サブスクリプションと Sitecore が管理する Azure サブスクリプションの使用比較	8
1.1.5	Sitecore Azure のインストール方法	8
1.2	Sitecore Azure の使用	13
1.2.1	Sitecore Azure コンテンツ デリバリー環境の作成方法	14
1.2.2	Sitecore Azure コンテンツ デリバリー環境に公開する方法	15
1.2.3	環境にファイルを配置する方法	15
1.2.4	環境内のインスタンス数を変更する方法	16
1.2.5	環境内のインスタンスを停止または開始する方法	16
1.2.6	環境からインスタンスを削除する方法	16
1.3	Windows Azure での Sitecore DMS の使用	17
1.4	よく寄せられる質問の回答	18
1.4.1	Sitecore Azure コンテンツ デリバリー環境では、キャッシュはどのようにクリアされますか。	18
1.4.2	Sitecore Azure の設定はどこに保存されていますか	18
1.4.3	Sitecore Azure でデプロイするソリューションはどのように構成されていますか	19
1.4.4	独自のドメイン名を使用するにはどうすればよいですか。	20
1.4.5	パッケージを暗号化する方法	20
1.4.6	Sitecore Azure プロジェクトで SSL を有効にする方法	20
1.4.7	Web ロール インスタンスへのリモート デスクトップ アクセスを有効にする方法	21
1.4.8	デプロイ名の規約	21
1.4.9	ファイアーウォール ルールの設定方法	21
1.4.10	カスタムの WebRole エントリー ポイントの実装方法	22
1.5	既知の問題、考慮事項、トラブルシューティング	24
1.5.1	Windows Azure で ASP.NET を使用する際の考慮事項	24
1.5.2	SQL Azure に関する考慮事項	24
1.5.3	Sitecore Azure に関する考慮事項	25
1.5.4	Sitecore Azure のトラブルシューティング	25

Chapter 1

Sitecore Azure スタート ガイド

このマニュアルでは、Sitecore Azure について説明します。Sitecore の管理者は、Sitecore Azure をインストールまたは使用する前にこのマニュアルをお読みください。

最初に、基本となる Windows Azure および Sitecore Azure の概念と用語の概要を説明した後、特定のタスクを Sitecore Azure で実行する手順、Sitecore Azure についてよく寄せられる質問の回答、および既知の問題とトラブルシューティング テクニックについて説明します。

このマニュアルは次のセクションで構成されています。

- 概要
- Sitecore Azure の使用
- Windows Azure での Sitecore DMS の使用
- よく寄せられる質問の回答
- 既知の問題、考慮事項、トラブルシューティング

Sitecore Azure 7.2 Sitecore Azure スタート ガイド

1.1 概要

Sitecore Azure は、Windows Azure クラウド サービスへの Web ソリューションのデプロイを簡素化するためのソフトウェアとサービスを提供します。Sitecore CMS と共に Sitecore Azure を使用すると、Windows Azure クラウド内で Sitecore ソリューションを利用できます。

Windows Azure は Microsoft によって作成されたクラウドのコンピューティング プラットフォームおよびインフラストラクチャーのひとつで、Microsoft によって管理されたデータセンターのグローバル ネットワークを通して、アプリケーションおよびサービスの構築、デプロイ、管理を行うためのものです。Sitecore Azure は Windows Azure クラウド サービス (PaaS) の周辺に構築され、Microsoft SQL データベースと同様に Web サーバーの自動デプロイを備えています。Windows Azure についての追加情報は <http://www.windowsazure.com> を参照してください。

Windows Azure サービスは Microsoft から取得でき、固有の Web アプリケーションのデプロイを管理できます。または、サービスを Sitecore から取得し、負荷の増大に対するフリー バーストなど、特別なライセンス メリットを取得することができます。また、Sitecore Azure には統合されたユーザー インターフェイスが備えられており、クラウドのデリバリー インフラストラクチャーを管理することができます。

Sitecore Azure を使用すると、オンプレミスのコンテンツ編集サーバーから、様々な Windows Azure ロケーションにホストされた、任意の数の Sitecore Azure クラウド サービスにデプロイできます。Sitecore Azure はブラウザベースの自動化ユーザー インターフェイスを提供し、Windows Azure のデプロイを管理します。

Sitecore Azure には次のようなメリットがあります。

- Sitecore Azure により Web ソリューションのスケールアウトと安全性を容易に実現できます。
- Sitecore Azure は Windows Azure SLA の上で高可用性インフラストラクチャーを実現します (99.95%)。 <http://www.windowsazure.com/en-us/support/legal/sla/>。このレベルで外部への接続性を得るために同じ可用性セットにデプロイされたインスタンスを 2 つ以上用意する必要があります。
- Sitecore Azure はソリューションを新しいサーバーにデプロイするためのコストと時間を大幅に削減します。
- Sitecore Azure は、パフォーマンス、災害対策に応じて、地理的に分散された負荷バランスや複数の場所での冗長化にかかるコストと時間を大幅に削減します。
- Sitecore Azure は想定されるトラフィックに対応するためのサーバーの容量を調整に必要なコストと時間を削減します。
- Sitecore Azure は、Web サイトを Windows Azure に移行する際の大半のプロセスを自動化します。

1.1.1 Sitecore Azure 7.2 デプロイのオプション

Sitecore Azure 7.2 では、クラウドからのコンテンツ デリバリーと同様に、クラウドからのコンテンツ編集もサポートします。オンプレミスの組合せ、もしくは編集ファームとデリバリー ファームと呼ばれるクラウド ベースの編集およびデリバリー環境の最

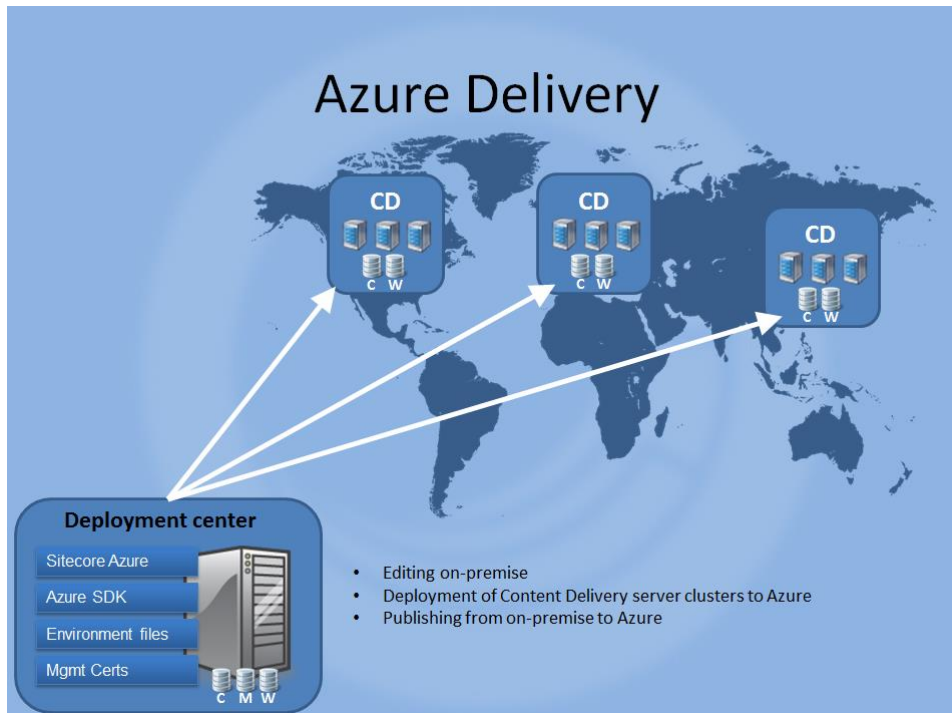
Sitecore Azure 7.2 Sitecore Azure スタート ガイド

適な組合せを決めることができます。ファームとは、ひとつの SQL Azure インスタンスに接続された Web ロール セットのことで、

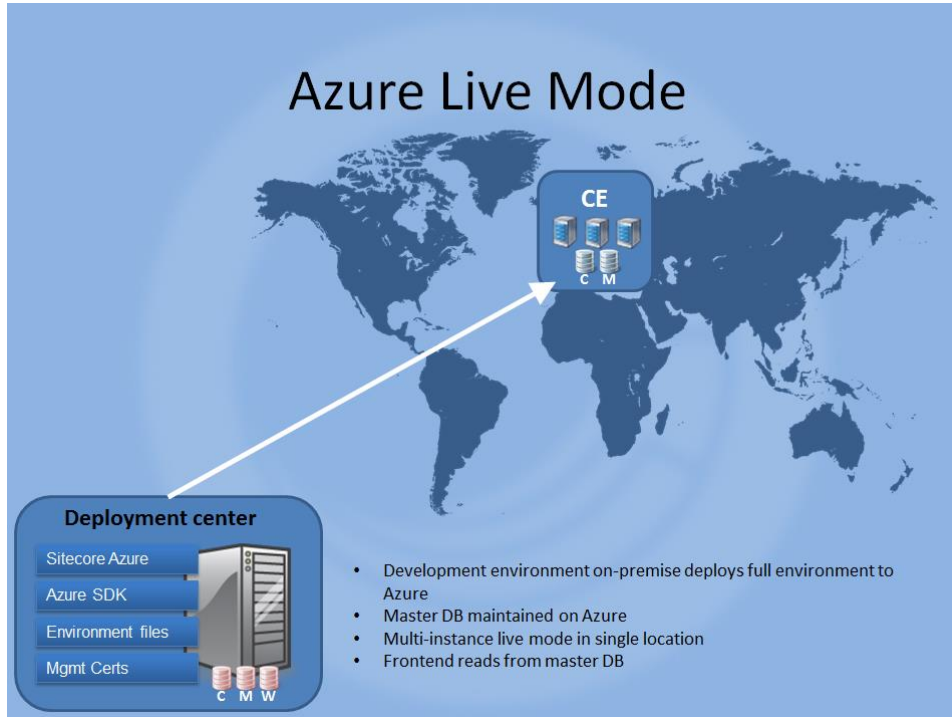
Microsoft は初期の設定とテストに使用できるローカルの Windows Azure エミュレーターを提供します。エミュレーターのインストールと使用に関する取扱い方法は、このドキュメントに含まれています。

参考材料としてデプロイ トポロジーについての例を説明します。

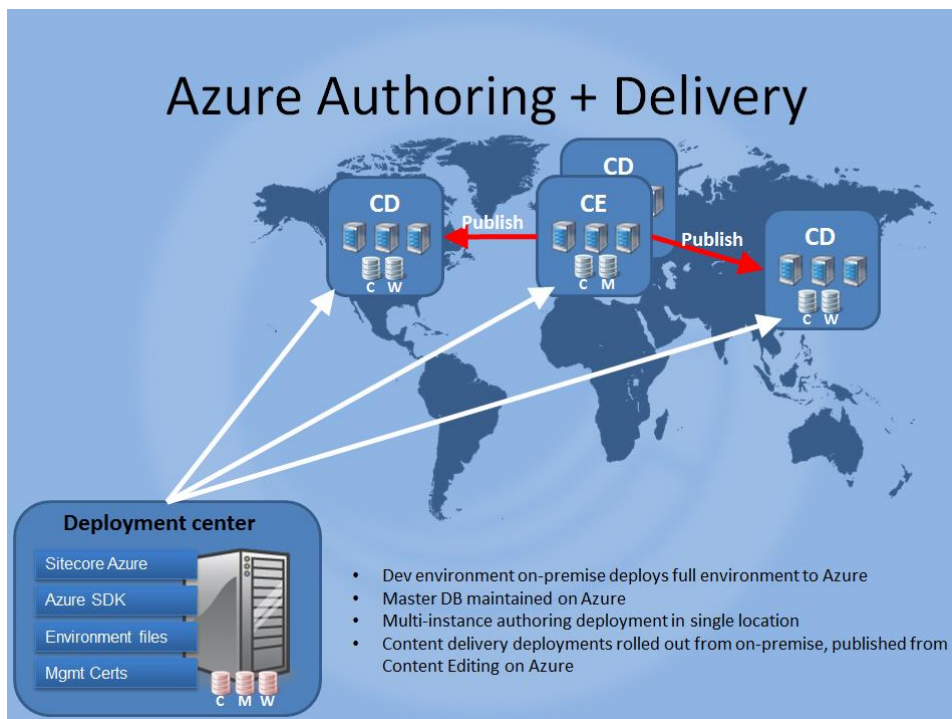
次の例では、オンプレミスの Sitecore インストールを使用するコンテンツ編集向けのインストールを使用し、複数の Microsoft Azure ロケーションにある 様々な Sitecore コンテンツ デリバリー ファームにパブリッシュします。



この例では、ライブ モードを使用する Sitecore Azure インストールが示されています。コンテンツ編集とコンテンツ デリバリーの両方とも同じファームを使用します。パブリッシュの必要はありません。コンテンツ編集環境で行われた変更の編集は、即座にパブリックで有効になります。



この例は、コンテンツ編集とコンテンツ デリバリーの両方が Microsoft Azure クラウドで開始されるデプロイトポロジーを示します。



1.1.2 Sitecore Azure のインストール要件

Sitecore Azure をインストールするには所定の要件を満たす必要があります。

- Microsoft Windows — 64 ビット
- Microsoft .NET Framework 4.0 以降
- Sitecore CMS 7 には .NET Framework 4.5 が必要です。
- 有効な Azure サブスクリプションを持つ Microsoft アカウント(以前は Windows Live ID) が必要です。
(30 日間のフリートライアルも有効ですが、連絡先とクレジットカード情報を提示する必要があります：
<http://www.windowsazure.com/en-us/pricing/free-trial/>)
- Sitecore CMS 7.1 または 7.2.
- Microsoft SQL サーバー 2008 R2, サービス パック 1 以降
- ローカル (オンプレミス) のコンテンツ編集環境 (Web サーバー) で、Windows Azure SDK バージョン 2.2 をインストールする必要があります。
- Microsoft から次のツールをダウンロードしてインストールします— <http://www.microsoft.com/ja-JP/download/details.aspx?id=40893>
 - WindowsAzureAuthoringTools-x64.msi
 - WindowsAzureEmulator-x64.exe
 - WindowsAzureLibsForNet-x64.msi
 - WindowsAzureStorageTools.msi
- Microsoft から次のツールをダウンロードしてインストールします— <http://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=35580> :
 - SQLSysClrTypes.msi (X64 Package)
 - Shared Management Objects.msi (X64 Package)

Sitecore Azure では、ローカル (オンプレミス) のコンテンツ編集環境 (Web サーバー) でこれらのツールをインストールする必要があります。

- Sitecore から Sitecore Azure 環境ファイル入手する必要があります。

この操作方法についての追加情報は、「Sitecore Azure のインストール方法」を参照してください。

重要

Sitecore Azure トラフィックを許容するために、Web サーバーのファイアーウォールを構成する必要があります。これについての追加情報は、「ファイアーウォール ルールの設定方法」セクションを参照してください。

1.1.3 Windows Azure ローカル エミュレーターの使用

Windows Azure のローカル エミュレーターは開発を目的としたローカル環境を提供します。ローカル エミュレーターを使用することによって、コストをかけることなく、より速やかなデプロイを実現するためにデプロイのテストを行うことができます。

Windows Azure ストレージ エミュレーターについての追加情報は、MSDN ドキュメント <http://msdn.microsoft.com/en-us/library/windowsazure/hh403989.aspx> を参照してください。

メモ

Windows Azure のローカル エミュレーターを使用するには、コンピューター上の管理者権限を所有し、かつ管理者ユーザーとして `Runner.bat` ファイルを使用する必要があります。

1.1.4 Microsoft Azure サブスクリプションと Sitecore が管理する Azure サブスクリプションの使用比較

Sitecore Azure サブスクリプションをご購入いただくと、Sitecore の自動化機能のメリットを活用して Azure インストールを管理できます。またバーストや優先的なサポートなどのライセンス メリットを取得できます。より詳細なライセンス メリットについては、ローカルの Sitecore オフィスで確認できます。

Sitecore インストールに使用できる Microsoft Azure サブスクリプションを既にお持ちの場合、その情報を Sitecore にご連絡いただくとお客様のインストールを継続できます。

Microsoft Azure サブスクリプションを使用中の場合、引き続き Sitecore の Azure ツールを使用したメリットを多数実現できます。

1.1.5 Sitecore Azure のインストール方法

Sitecore Azure をインストールするには、Sitecore CMS ライセンスと 最低限 Sitecore インストールが必要です。このファイルを手入するには、ご利用地域の Sitecore にご連絡ください。Sitecore のお問い合わせ先については、<http://www.sitecore.net/contact.aspx> を参照してください。

Sitecore 環境ファイルは、Windows Azure サブスクリプションに関する情報を含む設定ファイルです。たとえば、開発、テスト、本番環境が個別に存在する場合、複数の環境ファイルを用意すればそれぞれの環境に対応できます。Sitecore Azure を使用すると、これらすべての環境を同じ Sitecore インストール内で管理できます。このセクションでは、これらの環境ファイルを取得する方法について説明します。

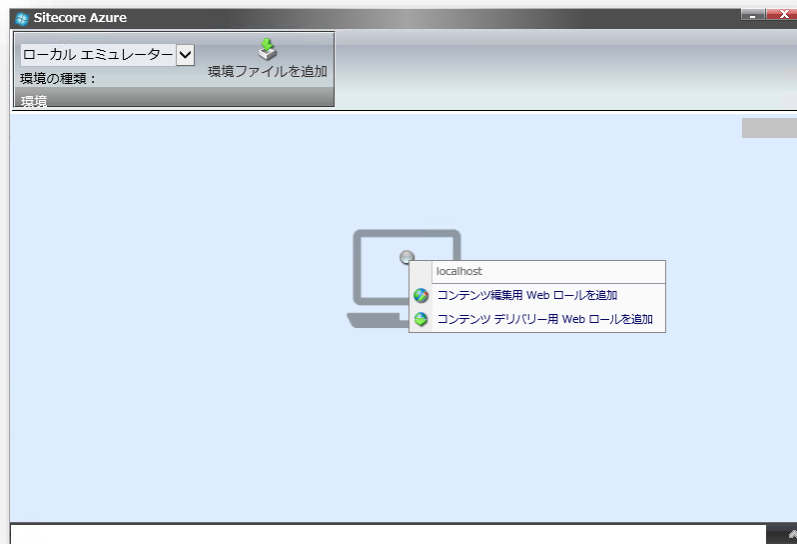
Sitecore Azure インストール パッケージを SDN Web サイトからダウンロードします。

Sitecore Azure のインストール方法:

1. コンテンツ編集サーバーのデスクトップに管理者としてログインします。

Sitecore Azure 7.2 Sitecore Azure スタート ガイド

- Sitecore デスクトップで、[Sitecore]、[開発ツール]、[インストール ウィザード] の順にクリックします。インストール ウィザードを使用して、Sitecore Azure パッケージをインストールし、確認メッセージが表示された場合は既存のコンポーネントを上書きします。
- Sitecore デスクトップで、[Sitecore] をクリックし、[Sitecore Azure] をクリックします。Sitecore Azure で、グレーのドットで表されたローカル エミュレーター 環境がダイアログで表示されます。



- Windows Azure クラウドにデプロイするには、Sitecore Azure 環境ファイルをアップロードする必要があります。

これが初めてのインストールで、まだ Sitecore の環境ファイルを取得していない場合は次を行います; ダイアログボックスに表示されているリンクをクリックしてフォームを埋め、Sitecore に情報を登録します。これで 48 時間以

Sitecore Azure 7.2 Sitecore Azure スタート ガイド

内に環境ファイルが取得できます。



Sitecore フォームに基本的な連絡先情報とプロジェクト名を記入し、Sitecore ライセンス ファイルをアップロードします。

Sitecore Azure 環境セットアップ

組織

連絡用の電子メール アドレス

環境の種類 開発環境 ▼

プロジェクト名

プロジェクトの名前を半角英数字で入力してください（記号やスペース、全角文字は使用しないでください）

ライセンス ファイル 参照...

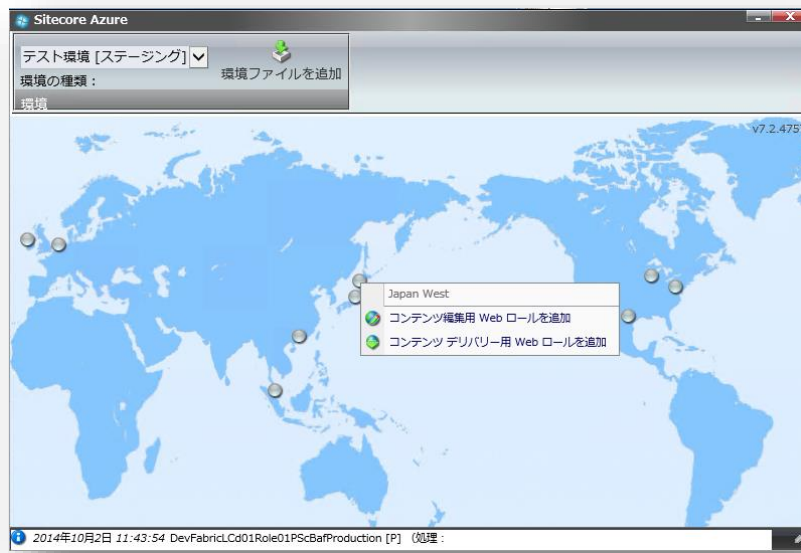
Back
Next

5. 一度環境ファイルを取得すると、[アップロード 環境ファイル] ダイアログ ボックスでこのプロセスを継続して行うことができます。[ファイルを選択] をクリックし、Sitecore から取得した環境ファイルを選択します。ファイルを選択すると、[アップロード] をクリックして継続します。環境ファイルの名前は `Environment.xml` です。
6. テスト環境に Windows Azure エミュレーターを選択したり、テストまたはプロダクション環境を選択する場合は、リボンの [環境] グループで [環境の種類] のドロップダウンを使って選択を行います。

Sitecore Azure 7.2 Sitecore Azure スタート ガイド

- 直接 Windows Azure ロケーションにデプロイすることを選択する場合、[環境の種類] のドロップダウンの [Development]、[テスト]、[プロダクション] のいずれかを選択します。これらのオプションは所有している Microsoft Azure サブスクリプションのタイプによって変わります。そのあとで、ロケーションをクリックし、フォームを追加します。計画中のデプロイ戦略に応じて、[コンテンツ編集用] または [コンテンツ デリバリー用] を追加する場合があります。

Sitecore Azure は環境ごとにひとつの編集環境のみをサポートすることに注意してください。



- 証明書が何も設定されていない場合は、証明書のアクセスを設定するようにダイアログが表示されます。有効なオプションが 2 つあります。

オプション A

Microsoft による迅速で簡潔な方法です。リンクをクリックして Microsoft から `.publishsetting` ファイルを取得します

(<https://manage.windowsazure.com/PublishSettings/index?client=&schemaVersion=1.0>)。

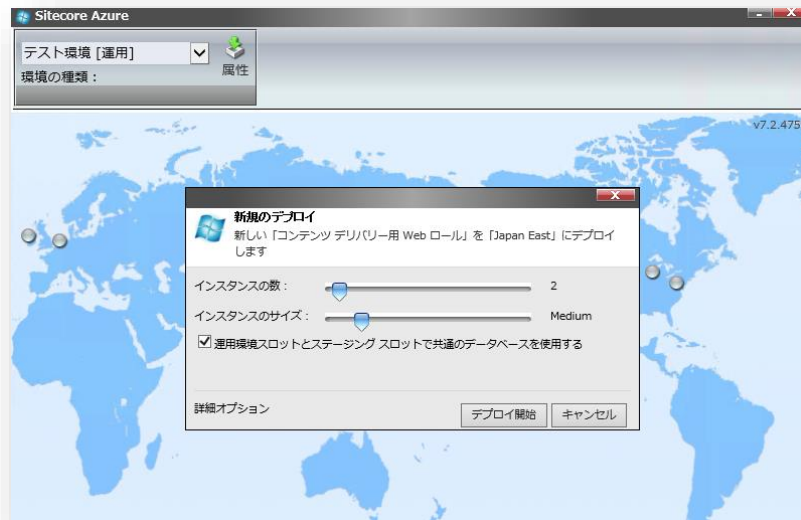
Microsoft ポータル サイトの説明に従い、Windows Live アカウントを使ってファイルを取得して `publishsetting` ファイルをローカルに保存します。次にそれを [Sitecore Azure インストール Management Certificate] ダイアログ を使ってアップロードします。

オプション B

アドバンス ユーザーの方は、既存の証明書を使用するか固有の証明書を生成することができます。Sitecore に `.pfx` をアップロードします。`.publishsettings` または `.pfx` ファイルのどちらかを選択しアップロードをクリックするのは最初の一度だけです。`.pfx` ファイルを選択した場合はパスワードを入力する必要があります。

Sitecore Azure 7.2 Sitecore Azure スタート ガイド

Web サーバーにインストールされた認証局からの証明書がまだない場合は、開発とテストの目的のために、自分で生成した証明書を作成することができます。



9. 各新しいデプロイに、いくつかのインスタンスや仮想マシンのサイズ、データベース オプション、パブリッシュ オプションを設定できます。画面例にはデフォルトの設定が示されています。
10. デプロイ ストラテジーに応じてこれらの設定を変更する場合があります。[デプロイ開始] をクリックします。デプロイの手順は、ロケーションと移動されるデータの量に応じて少し時間がかかります。

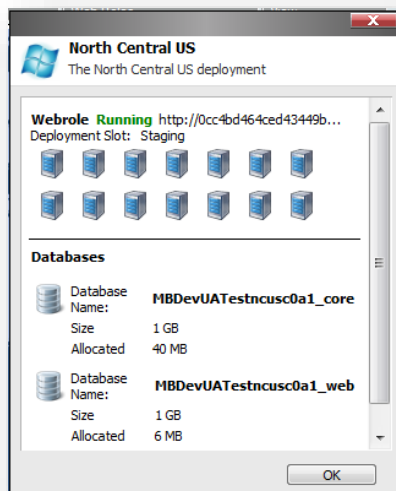
追加情報は「Sitecore Azure に関する考慮事項」セクションを参照してください。

編集環境が作成されている間、操作を開始して別のロケーションでデリバリー環境を作成することができます。編集およびデリバリー環境が作成されると (マップ上に緑色の円で表示されます)、ロケーションの上でクリックし、編集またはデリバリー メニューを展開できます。[スワップ] コマンドを使ってロケーションを [ステージング] から [運用] に移動します。

1.2 Sitecore Azure の使用

Sitecore Azure では、利用可能な Windows Azure のホスティング場所を示すアイコンがマップ上に表示されます。各アイコンとその色によって、環境内のプロジェクトのステータスがわかります。

- **グレーの円:** 未使用。コンテンツ デリバリー環境を作成できます。
- **緑の円:** 稼働中。インターネット経由でコンテンツ デリバリー環境にアクセスできます。
- **赤の円:** 停止。コンテンツ デリバリー環境が停止しています。
- **青の円:** 環境は作成されていますが、デプロイはされていません。
- **砂時計:** ビジー。Sitecore Azure がこの場所の開始、停止、削除、または管理操作を試行中であるか、その場所で実行した現在の操作がキューに登録されています。
- アイコンをクリックして場所を選択すると、その場所のステータス ダイアログ ボックスが表示されます。リボンの各コマンドは選択した場所に対して機能します。Sitecore デスクトップで複数の Sitecore Azure ウィンドウを開くと、複数の場所についてタスクのステータスを確認できます。



注意

Sitecore Azure のユーザー インターフェイスで、SQL Azure 公開ターゲット データベースの追加や削除、設定の更新など、特定の操作を行うと、ASP.NET が再起動されます。したがって、このような操作により、システム上の他のユーザーやプロセスに影響を及ぼす可能性があります。また、デプロイ操作の最終段階でも ASP.NET が再起動されます。同時に複数のデプロイを実行すると、Sitecore はすべてのデプロイが完了するまで待機してから ASP.NET の再起動を開始し、すべてのデプロイに変更が適用されるようにします。

メモ

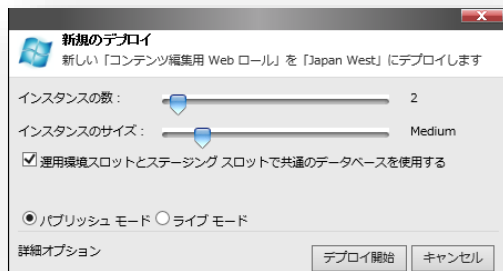
リモート サービスの呼び出しに時間がかかるため、Sitecore Azure のユーザー インターフェイスが応答していないように見える場合があります。

1.2.1 Sitecore Azure コンテンツ デリバリー環境の作成方法

Sitecore Azure でデプロイするソリューションの構成については、「Sitecore Azure でデプロイするソリューションはどのように構成されていますか」のセクションを参照してください。

Sitecore Azure をインストール中、複数のファームを作成しました。以下は追加の考慮事項です。

1. あらかじめ Sitecore Azure 環境を作成する前に、Internet という名前の既定のパブリッシュ ターゲット (Web データベース) にコンテンツをパブリッシュします。
2. デプロイ時間を最小限に抑えるためには、コンテンツ編集環境のドキュメント ルートから不要なファイルを削除します。
3. 既存の環境の設定を変更したり、または随時デリバリー 環境を追加することができます。Sitecore Azure で、元のインストールと同じステップに従って、ロケーション サークルをクリックし新しい環境を追加します。緑の円をクリックして、既存の使用中の環境の設定を変更します。編集またはデリバリー メニューを展開し、環境の編集と管理に関する選択肢を表示します。
4. [新規のデプロイ] ダイアログ ボックスで、インスタンスの数 (高可用性を確実にするには最低 2 つのインスタンスが推奨されています) と、仮想マシンのサイズを選択します。デフォルトではミディアムですが、通常簡素なスケール戦略しか含まれないので、スケールアウトしてさらに環境を追加する前に、環境をより大きな仮想マシンのサイズにスケールアップすることを推奨します。小さなサイズは評価とテスト デプロイに使用できます。現時点で Microsoft Azure ではデプロイが作成された後のロール サイズの変更はサポートされていません。推奨されるアプローチ方法としては、より大きな仮想マシンのサイズを持つスロットに新しいデプロイを作成し、そのデプロイが完了して開始するときにスワップすることです。



Sitecore Azure 7.2 Sitecore Azure スタート ガイド

5. デフォルトのデータベース セレクションはデータベースを [プロダクション] と [Starting] 間で共有するためです。また、管理されたパブリッシュ環境とライブ モードの間で選択することもできます。ライブ モードはコンテンツ編集環境内で変更をもたらし、即座に Web サイトのフロントエンド上で有効にします。自動的にコンテンツはデリバリーファームに移動されません。

ライブ モードについての追加情報は、Sitecore CMS 7.0 のドキュメントを参照してください。

ロケーションでのインスタンスの変更についての追加情報は、「環境内のインスタンス数を変更する方法」セクションを参照してください。

メモ

デプロイ プロセスの所要時間はソリューションのサイズ、ネットワーク状態、およびその他の要件に左右されるため、環境によって大幅に異なります。最低 15 分は想定されます。通常ストレージ アカウントの作成には時間がかかるので、デプロイ時間はひとつのロケーションに最初のデプロイを行った後は減少します。これは同じロケーションでのデプロイはストレージ アカウント共有するためです。

1.2.2 Sitecore Azure コンテンツ デリバリー環境に公開する方法

Sitecore Azure コンテンツ デリバリー環境に公開する方法:

- Windows Azure の場所に関連付けられた公開用ターゲット データベースに公開します。

メモ

Sitecore Azure 環境にライブ モード デプロイを選択した場合、パブリッシュ オペレーションを開始する必要はありません。サイトがライブ モードに構築されると、パブリッシュ操作を開始するようにダイアログが表示され、ランタイムエラーが生じる場合があります。ライブ モードはコンテンツ編集にのみ適用します。また、ライブモードを使用するオンプレミス ソリューションは、クラウドの Sitecore Azure デプロイで自動的に変更が反映されないことに注意してください。

1.2.3 環境にファイルを配置する方法

Sitecore Azure コンテンツ デリバリー環境にファイルを配置する方法:

1. Sitecore Azure で場所を表すアイコンをクリックします。編集またはデリバリー メニューを展開して [Upgrade Files] オプションを選択します。

このオペレーションが起動されると、ソリューションはパッケージされ、新しいファイルを含んでアップデートされます。ひとつ以上のインスタンスがある場合は、ダウンタイムなくまとめて環境に追加されます。このオペレーションはファイルでのみ使用でき、データベースやアイテムの変更は適用されません。

1.2.4 環境内のインスタンス数を変更する方法

Sitecore Azure コンテンツ デリバリー環境で Sitecore インスタンスの数を変更する方法:

1. Sitecore Azure で、ロケーションを表すアイコンをクリックします。編集またはデリバリー メニューを展開し、[スケール] オプションを選択します。
2. このロケーションに構成するインスタンスの数を選択します。

メモ

Microsoft では、場所ごとに 2 つ以上の Web ロールを作成することを推奨しています。2 つ以上の Web ロール インスタンスが存在すると、ファイルを更新するときにダウンタイムが発生しません。99.9% の可用性が Microsoft のサービス レベル アグリーメントで保証されています

1.2.5 環境内のインスタンスを停止または開始する方法

環境内の Sitecore コンテンツ デリバリー インスタンス (Windows Azure Web ロール) を停止する方法:

1. Sitecore Azure で、場所を表すアイコンをクリックします。編集またはデリバリー メニューを展開し [停止] オプションを選択します。

環境内でインスタンスを開始する方法:

1. Sitecore Azure では、ロケーションを表すアイコンをクリックします。編集またはデリバリー メニューを展開し [開始] オプションを選択します。

メモ

ロールの中断ではインスタンスは削除されません。ロールが中断されている間もコストは発生します。

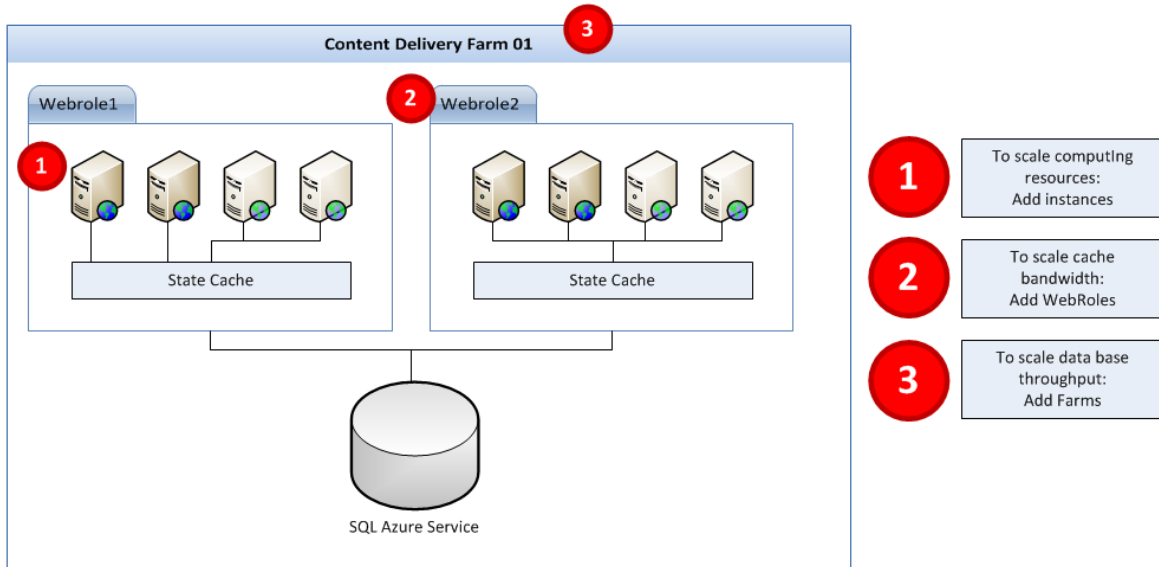
1.2.6 環境からインスタンスを削除する方法

環境からすべてのインスタンスを削除する方法:

1. Sitecore Azure で、場所を表すアイコンをクリックします。編集またはデリバリー メニューを展開し [停止] オプションを選択します。
2. [停止] 操作が完了した後、編集またはデリバリー メニューを展開し、[削除] オプションを選択します。

1.3 Windows Azure での Sitecore DMS の使用

Sitecore DMS を使った Sitecore サイトの実装はスケーラビリティに関する新たな考慮を要します。Sitecore Azure は、ガイドラインが正しく行われた場合はこのスケーラビリティを効率よく処理します。DMS のスケーリングは、計算リソース、セッション状態情報、データベース リソースの 3 つの異なるエリアで考慮される必要があります。次の図はこれらの 3 つの考慮点について示したものです。



コンピューティング (CPU) リソースを追加するには、Web ロールに追加のインスタンスを挿入します。

セッション情報を格納するサーバーキャッシュを追加するには、追加の Web ロールを編集およびコンテンツ デリバリー 環境に追加します。Sitecore DMS は、Web サイト ユーザーごとに大容量のデータをセッション状態のキャッシュに保持するため、これは Sitecore DMS スケーラビリティにおいて最も重要な考慮事項です。

データベース リソースを追加するには、追加のコンテンツ デリバリーファームを作成します。各ファームには固有のデータベース サーバーがあります。Sitecore Azure はロケーションごとに 99 までの環境をサポートします。

1.4 よく寄せられる質問の回答

このセクションでは、よく寄せられる質問に対する回答を紹介します。

1.4.1 Sitecore Azure コンテンツ デリバリー環境では、キャッシュはどのようにクリアされますか。

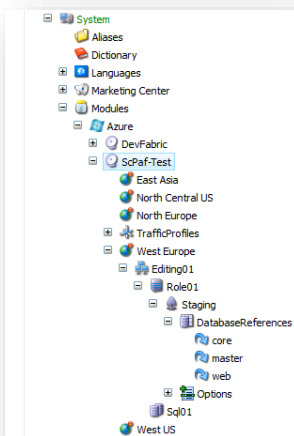
Sitecore Azure は、オンプレミス Sitecore ソリューションと同じメカニズムを使ってキャッシュを削除します。パブリッシュ操作が完了すると、Sitecore Azure コンテンツ編集環境はパブリッシュ ターゲット データベースにタイムスタンプを書き込みます。Sitecore Azure コンテンツ デリバリー環境は各リクエストのタイムスタンプを確認し、適宜キャッシュをクリアします。

1.4.2 Sitecore Azure の設定はどこに保存されていますか

Sitecore Azure では、複数の場所に設定情報を保存しています。Sitecore Azure の基本設定情報は、`/App_Config/Include/Sitecore.Azure.config` ファイルに保存されます。

Sitecore は、`/Sitecore/System/Modules/Azure` のアイテムとその子孫を使用して設定情報を管理します。

`/sitecore/system/Modules/Azure` には、インストールされた環境を表すアイテムが複数存在します。いくつか階層を下ると、デプロイの設定を表す Azure Deployment アイテムがあります。コンテンツ エディターを通じて、または [新規のデプロイ] ダイアログ ボックスの [詳細オプション] ボタンを使用してこのアイテムにアクセスできます。



デプロイの設定情報を含むフィールドがいくつかありますが、これらは手動で変更してカスタマイズできます。

- 各デプロイ アイテムの配下に、SQL Azure へのデプロイに使用するデータベース プロジェクトを含むデータベース レファレンス アイテムがあります。デフォルトでは、デリバリー環境には core と web データベースがあり、編集環境には core 、 master 、 web データベースがあります。さらに、Sitecore DMS が有効な場合、デリバリー

Sitecore Azure 7.2 Sitecore Azure スタート ガイド

環境と編集環境の両方に アナリティクス データベースがあります。別のデータベースを SQL Azure にデプロイする必要がある場合、別のデータベース アイテムを作成できます。

- 環境生成のオペレーション中に、各 SQL Azure データベース サーバーとストレージがまだ存在しない場合は作成され、デプロイ プロセス中に使用されます。

1.4.3 Sitecore Azure でデプロイするソリューションはどのように構成されていますか

デプロイするソリューションのドキュメント ルートを構成するため、Sitecore Azure は次のタスクを実行します (この順序で実行されるとは限りません)。

- Sitecore Azure はオンプレミス Sitecore インストールのデフォルトのドキュメント ルート サブフォルダーを Windows Azure デプロイの `$(datafolder)\Data\AzurePackages\ (xx) Azure\SitecoreWebSite` と、ローカル エミュレーター デプロイの `$(datafolder)\Data\AzurePackages\ (xx) DevFabric\SitecoreWebSite` にコピーします。
- Sitecore Azure は Sitecore/Website フォルダーから不要なファイルとサブディレクトリを削除します。
- Sitecore Azure は Azure Deployment アイテムの Override Sources フォルダ フィールドで指定されたサブフォルダーのコンテンツを `$(datafolder)\AzurePackages\ (xx) Azure\SitecoreWebSite` サブフォルダーにコピーします。
- Sitecore Azure はファイルをインクルードフォルダーから通常のインストールとして含むことによって Web.config を備え、Azure Deployment アイテムの Custom Web Config Patch フィールドの XSLT パッチに基づく XSLT の変換も行います。準備の最後に Web.config のサイズを縮小するために、App_Config/Include サブフォルダーに保存されたいくつかのインクルードファイルに分割されます。
- Sitecore Azure は Web.config の connectionStrings 要素を編集します。これは unnecessary 接続文字列を削除し、Azure Deployment アイテムの Connection Strings Patch フィールドに保存されたデータベースに基づく新しい文字列を追加します。カスタムの接続文字列がサポートされています。
- Sitecore Azure はローカル インストールからコンテンツ デリバリー パッケージにライセンス情報をコピーします。コンテンツ デリバリー インストール内の別のライセンス ファイルが必要な場合、このファイルを `\AppData\AzureOverrideFiles` サブフォルダーに追加します。(Azure Deployment アイテムの Override Sources Folder フィールドで指定されたデフォルトの Path)

Sitecore Azure 7.2 Sitecore Azure スタート ガイド

- Sitecore Azure はコンテンツ デリバリー パッケージ内の web.config ファイルを変更して、データベース、アーカイブ、エージェント、サイト、ウォッチャー、その他の機能を設定または除外します。

1.4.4 独自のドメイン名を使用するにはどうすればよいですか。

独自のドメイン名を使用するには、インターネット レジストラーを使用して CNAME レコードを作成する必要があります。インターネット レジストラーから提供されたツールを使用して、ドメインの目的のエイリアス (“www” など) を、Windows Azure アプリケーションの作成時に割り当てられたホスト名 (“sitecoreassignedpolicyname.trafficmanager.net” など) にマッピングするエントリーを作成します。次に、インターネット レジストラーから提供されたツールを使用して、Windows Azure ホスト名にマッピングしたサブドメインにルートドメインを転送します。

CNAME レコードは、必ず特定のサブドメインにマッピングする必要があります。ルート ドメイン自身へのマッピングやワイルドカードを使用したマッピングはできません。この手順の詳細については、<http://www.windowsazure.com/en-us/develop/net/common-tasks/custom-dns> を参照してください。

仮想 IP アドレス (VIP) には直接マッピングしないでください。場合によっては、Windows Azure によって基になる VIP が変更されることがあります。

1.4.5 パッケージを暗号化する方法

Sitecore Azure のパッケージは、既定で暗号化されます。暗号化を無効にするには、Azure.Package.NoEncryptPackage 設定を true に設定します。この設定は、/App_Config/Include/Sitecore.Azure.config ファイル内にあります。

```
<setting name="Azure.Package.NoEncryptPackage" value="true" />
```

1.4.6 Sitecore Azure プロジェクトで SSL を有効にする方法

Microsoft Windows Azure を使った SSL の使用についての基本情報は <http://www.windowsazure.com/en-us/develop/net/common-tasks/enable-ssl> を参照してください。

SSL をコントロールする Sitecore 設定は、デプロイ アイテムの Service Configuration と Service Definition ファイルで確認できます。最初のインストールの後、これらのフィールドの以下のセクションを編集して SSL を有効にします。追加情報は、「Sitecore Azure の設定はどこに保存されていますか」セクションを参照してください。

Sitecore Azure 7.2 Sitecore Azure スタート ガイド

1.4.7 Web ロール インスタンスへのリモート デスクトップ アクセスを有効にする方法

Web ロール インスタンスへのリモート デスクトップ アクセスを有効にする方法についての追加情報は、<https://www.windowsazure.com/en-us/manage/services/cloud-services/how-to-configure-a-cloud-service/#remoteadces> で確認できます。

リモート デスクトップはデプロイが成功した後に Windows Azure マネージメント ポータルから有効化するのが、最も簡単な方法です。必要な場合は証明書を作成し、アクセスを指定または変更することができます。

これによって Sitecore カスタマー サービスまたは Microsoft テクニカル サポートの RDP が有効になります。

1.4.8 デプロイ名の規約

デプロイ名は世界中で固有である必要があり、Azure 環境設定において複数の目的で使用される場合があります。デプロイ名は次のパターンを使って割り当てられます。

```
[projectname][environmenttype][location][Farm Type][XX]Role[XX]Sc[first 3 chars of subscription id][UTCTimeStamp]
```

たとえば、myprojectDeveWeCd01Role01Sc561_201304181010 というデプロイ名は、開発環境として稼働し、西欧のホスト ロケーションを使用し、デプロイがコンテンツ デリバリー環境である myproject という名前のプロジェクトを示します。

1.4.9 ファイアーウォール ルールの設定方法

ファイアーウォール ルールを設定する場合、次の共有サービスとポートへのアクセスを可能にします。

Microsoft データセンターの場合：

- <https://management.database.windows.net:8443>
- <https://management.core.windows.net> (443)
- <https://blob.core.windows.net> (443)

さらに、使用中のデプロイ ロケーションに応じて、ポート 1433 を次のホストで開く必要があります。

- **北欧** — data.db3-1.database.windows.net [94.245.114.93]
- **西欧** — data.am2-1.database.windows.net [94.245.97.22]
- **東アジア** — data.hkn1-1.database.windows.net [111.221.69.22]
- **東南アジア** — data.sgp1-1.database.windows.net [207.46.63.13]
- **中南米** — data.sn1-1.database.windows.net [65.55.74.144]

Sitecore Azure 7.2 Sitecore Azure スタート ガイド

- **中央アメリカ** — data.ch1-1.database.windows.net [207.46.203.22]
- **東アメリカ** – data.bl2-1.database.windows.net [168.62.47.75]
- **西アメリカ** -- data.by1-1.database.windows.net [168.62.15.75]
- **西日本** – data.os1-1.database.windows.net [23.98.56.75]
- **東日本** – data.kw1-1.database.windows.net [23.98.57.44]

メモ

ロケーションと IP アドレスは変更する場合があります、新しいロケーションは時々追加される場合があります。これらの取り扱いについて問題が生じた場合は、Microsoft のテクニカル サポートに連絡してください。

メモ

いくつかのロケーションは新しいデプロイでは利用できません。

1.4.10 カスタムの WebRole エントリー ポイントの実装方法

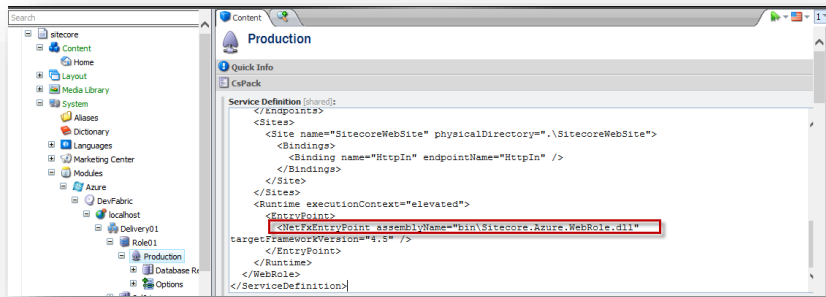
デフォルトでは、ロールのインスタンスが初期化されている場合 (スタート イベント上で)、Sitecore Azure は RoleEntryPoint クラスを拡張して機能を追加し、Windows Azure ストレージ アカウント を使用することによって診断を設定します。このクラスは WebRole と名付けられ、Sitecore Web サイトの \bin\WebRole.dll アセンブリに配置されます。

カスタムの WebRole エントリー ポイントの実装方法:

1. WebRole.dll アセンブリからデフォルトの WebRole.WebRole クラスを拡張するクラスを実装します。このアセンブリは、Sitecore Azure のインストール後、\Website\bin フォルダで確認できます。
2. 使用中のクラスでロールのインスタンスが初期化され (OnStart)、開始され (Run)、停止される (OnStop) 際に、実行する必要なメソッドをオーバーライドします。
3. コードを新しいアセンブリにコンパイルし、ソリューションの \Website\bin フォルダに入れます。

Sitecore Azure 7.2 Sitecore Azure スタート ガイド

4. デプロイ アイテムの Service Definition フィールドで WebRole アセンブリの名前をアップデートします。



5. Sitecore Azure を使って新しいデプロイを作成または既存のデプロイをアップグレードし、変更を適用します。

Sitecore Azure 7.2 Sitecore Azure スタート ガイド

1.5 既知の問題、考慮事項、トラブルシューティング

このセクションでは、Windows Azure、SQL Azure、および Sitecore Azure の既知の問題について説明します。

1.5.1 Windows Azure で ASP.NET を使用する際の考慮事項

Windows Azure で Sitecore などの ASP.NET アプリケーションを使用する場合は、次の点を考慮してください。

- ASP.NET セッション管理で、`DistributedCacheSessionStateStoreProvider` はデフォルトの選択です。これはプロセス状態のプロバイダーではないので、このようなコードでは考慮される必要があります。
- クラウドに移行する前に、ソリューションへの内部アプリケーションの統合を検討してください。
- Windows IIS マネージャーではなく設定ファイルを使用してください。
- Windows Azure に個別のファイルをデプロイすることはできません。ドキュメント ルート全体をデプロイする必要があります。
- Windows Azure は、ディスク キャッシュなどサイズの大きなカスタム ファイルとフォルダーにローカル ストレージを使用します。I/O タスクに適切な API を使用します。Sitecore Azure は `SitecoreWebSite` というデフォルトのローカル ストレージを備えるために予め設定されます。
- ローカルストレージをデータの永久化を必要としないすべてのカスタム I/O タスクに使用することを推奨します。永久化にはストレージ アカウントを使用することが考えられますが、このアプローチは高度なパフォーマンス環境でボトルネックが生じる場合があることに注意してください。
- Windows Azure インスタンスはデザインによって変化します。この前提を考慮してアーキテクチャをデザインしてください。

1.5.2 SQL Azure に関する考慮事項

Sitecore で SQL Azure を使用する場合は、次の点を考慮してください。

- リモートの場所から SQL Azure データベースにアクセスすると、ネットワーク状態やその他の要因がパフォーマンスに影響します。
- リモートで SQL Azure にアクセスする場合 (コンテンツ編集環境からの発信アクセス) は、ポート 1433 を介した暗号化接続を使用してください。

SQL Azure のセキュリティの詳細については、<http://msdn.microsoft.com/en-us/library/ff394108.aspx> を参照してください。

- SQL Azure のライセンスにより、データベースの最大サイズが 150GB に制限されます。

Sitecore Azure 7.2 Sitecore Azure スタート ガイド

SQL Azure のサイズとライセンスの詳細については、<http://msdn.microsoft.com/en-us/library/ee336245.aspx#dcas> を参照してください。

- SQL Server 2008 R2 をインストールする場合は、必ず SP1 を使用してください。
- SQL Azure はデータベース セキュリティに IP アドレスの制限を使用します。
- SQL サーバーが別のサーバー上にインストールされている場合、マネージメント オブジェクト パッケージで共有される適切な Microsoft SQL を Sitecore CMS がデプロイされているサーバー上にインストールする必要があります。

1.5.3 Sitecore Azure に関する考慮事項

Sitecore Azure を使用する場合は次の点を考慮してください。

- Sitecore Azure は SQL Azure データベースに自動デプロイのみをサポートします。構成設定を変更すると Azure 仮想マシン上の (IaaS) データベースにデプロイできます。
- Sitecore Azure はファイル メディアをサポートしていません。

1.5.4 Sitecore Azure のトラブルシューティング

Sitecore Azure の一般的なトラブルシューティング手順は次のとおりです。

- ASP.NET を再起動します。
- ブラウザーのキャッシュをクリアします。
- コンテンツ管理環境で Sitecore のログにエラーが記録されているかどうかを確認します。
- インスタンスを環境から削除し、もう一度デプロイします。
- デプロイの後、\$dataFolder/AzurePackages¥(xxx)Deployment サブディレクトリを IIS Web サイトのドキュメント ルートとして設定し、そのサイトを診断します。
- web.config ファイルで、/configuration/system.web/customErrors エLEMENTの mode 属性を一時的に Off に設定します。

注意

mode 属性を Off に設定すると、Sitecore Azure 環境内の詳細なエラー情報が公開されます。mode が Off になっている間は、アプリケーションを保護するために他のテクニックの利用を検討してください。診断後は必ず mode を On または RemoteOnly に設定し、その変更をデプロイしてください。